

情勢報告

「北川村ゆず振興ビジョン」実現に向けた「北川村ゆず地域座談会」の開催



活発に意見交換を行う参加者

農業振興センターでは、2月下旬に北川村内 6 地区において開催された「ゆず地域座談会」に参加した。北川村ゆず振興協議会の主催で、北川村役場および農業振興センターで作成した「北川村ゆず振興ビジョン」の具現化に向けた取り組みの一環として、毎年 2 回開催されている。

座談会では、昨年の大豊作により果汁販売に苦戦している状況が説明された後、今後の販売戦略や選ばれる産地となるために何をすべきかなど、活発な意見交換が行われ、農業振興センターではユズ皮の堆肥化への取り組みや次年度のユズ PR 事業の効果的な活用についての助言・提言を行った。

今後も関係機関とともに「北川村ゆず振興ビジョン」の実現に向けた活動を支援する。

JA 土佐あき吉良川支所千両部会の売り上げアップ



会の様子

2月24日、JA 土佐あき吉良川支所にて、生産者 11 名参加の総会が開催され、販売額が増加したことが報告された。

平成 21 年産は、前年産と比べて出荷本数は 553,000 本と少ないものの(95%)、今年産から取り組んだ「cm 表示」の効果もあって、他品目の販売額は軒並み減少しているが、千両は前年比 109%と大幅に伸びた。

この「cm 表示」は平成 20 年 12 月に市場から、これまでの 2L～S 表示ではわかりにくいという意見を受け、部会、JA および農業振興センターで市場視察や幾度かの話し合いで決定した。

千両は、管内の重要な品目の 1 つである。農業振興センターは、産地の課題を 1 つ 1 つ解決するよう、生産者、JA と共に取り組んでいく。

「お国自慢の会」で消費拡大につなげる技を披露



地域産物を使った料理が勢揃い

2月25日、田野町で農漁村女性グループ研究員ら 31 人が参加し、「お国自慢の会」を開いた。農業振興センターは地場の消費拡大はまず地元からというグループ員の発案を後押しして、一堂に集まった自慢したい産物や加工品の料理を試食、批評し合い、皆で共有し、消費拡大宣伝の資料作成等につなげるのが目的であった。当日は、なすのアラカルト寿司など 24 品が並び、「簡単なのでレシピを活用する」等の声が聞かれた。さらに、自給率向上をめざした家庭菜園についての講演も併せ、普及指導員が行った。今後も、地域の産物を使い消費拡大につなげる取り組みを進める。

第4回安芸・室戸地区農村女性リーダー「つどい」を開催



多くの参加者がありました。

3月3日、芸西村民会館で第4回安芸・室戸地区農村女性リーダー「つどい」を開催し、参加者60名のもと農業や産地のあり方について考えた。今回は、大阪市場等の調査を行った結果を報告し、農家の視点で産地のまとまりの必要性について報告・提案を行った。提案内容は、消費者ニーズに対応した生産や食べてもらう工夫の重要性などであった。

次年度も、今年支援した計画的な活動（事前研修及び事後研修の実施）を継続して行えるように、充実した活動につなげていく。

くぶつけ集落営農組合ユズ剪定講習会の開催



くぶつけユズ剪定講習会

3月12日、こうち型集落営農を実施している北川村くぶつけ集落営農組合でユズ剪定講習会を行った。当日は、共同防除を行っている農家6戸のほか集落に新植をしている2戸の農家の出席もあり、計10名の参加で苗木の仕立て方を中心に各圃場を回った。8圃場とも生育状況は違うが、基本的な考え方は同じで、農家から「剪定は難しいといつも言われるが、誰でもできるように単純に考えてもらいたい」ことを伝え、できるだけ園主に考えてもらうように逆に質問をしながら行った。最後には、なんとかわかってきたと言ってもらえるようになり、これからの栽培管理方法も積極的に聞くなどやる気に満ちた講習会であった。